

宇野港宇野地区中長期ビジョン検討会 設置趣旨

令和4年度より、各地方運輸局等において、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながる、地域・日本のレガシー（遺産）となる新たな観光資源を形成するため、実現可能性調査・プラン作成が実施されているところ。

この中で、岡山県玉野市においては、「瀬戸内産業芸術祭『S・A・I』～Setouchi Art & Industry～」(以下、SAI)の構想を立ち上げ、瀬戸内エリアにおける産業、文化、芸術の振興のため、オープンファクトリーをはじめとする各種取組が進められているところである。また、SAIのゲートウェイとなる宇野港については、景観と機能性を調和させた新生宇野港のコンセプト案について議論がなされたところである。

宇野港宇野地区については、平成18年に水深10mの大型旅客船ふ頭が供用され、クルーズ船が寄港しているほか、平成20年には当該客船バースを含む宇野地区の各種施設が「みなとオアシス宇野」として登録され、クルーズ船寄港時の入港イベント等が行われているところである。また、瀬戸内海の直島・豊島・小豆島と宇野港を結ぶ内航フェリー・旅客船が就航しており、瀬戸内海の交通結節点としての機能も有している。

他方で、平成3年に港湾計画が改訂されて以降、新たな企業立地が進んでおり、宇野港をとりまく環境が変化してきているほか、前述の新生宇野港コンセプトの中で中・長期的な開発の方向性も打ち出されており、宇野港宇野地区の在り方を関係者間で議論し、まとめていく必要がある。

そこで、宇野港宇野地区の港湾機能の向上・にぎわい空間の創出に向けた方策等を検討し、「宇野港宇野地区中長期ビジョン」としてとりまとめるため、有識者、関係団体・企業及び行政機関からなる検討会を設置する。

宇野港宇野地区中長期ビジョンの検討体制

- 令和4年度・5年度の瀬戸内産業芸術祭(SAI)の構想の中で、関係者間において新生宇野港について議論。
- 令和6年度より、宇野港宇野地区のデザイン、港湾機能の向上・にぎわい空間の創出等について検討する体制を構築。

